

2021年3月期 第2四半期決算説明会

2020年11月26日

旅行事業は厳しい状況が継続するも、
物流事業は回復が鮮明に

I. 2021年3月期 第2四半期実績 P. 3

II. 2021年3月期 通期計画 P.15

III. 第6次中期経営計画見直し P.20

IV. 事業変化への対応 P.27

V. トピックス P.32

I .2021年3月期 第2四半期実績

2021年3月期 第2四半期 実績

(単位:百万円)

	20/3期2Q 実績	21/3期2Q 実績	前年同期比	
			増減額	率(%)
売上高	103,408	69,183	△34,225	66.9%
営業利益	1,897	△251	△2,148	-
経常利益	2,309	612	△1,697	26.5%
四半期純利益	1,455	△155	△1,610	-

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績

(単位:百万円)

	事業	20/3期2Q 実績	21/3期2Q 実績	前年同期比		
				増減額	率(%)	
売上高	物流事業	日本	49,714	46,206	△3,508	92.9%
		海外	22,612	20,840	△1,772	92.2%
	旅行事業	30,351	1,491	△28,860	4.9%	
	不動産事業	728	645	△83	88.6%	
	その他	3	1	△2	33.3%	
	合計	103,408	69,183	△34,225	66.9%	
営業利益	物流事業	日本	891	442	△449	49.6%
		海外	281	300	19	106.8%
	旅行事業	239	△1,379	△1,618	-	
	不動産事業	458	378	△80	82.5%	
	その他	28	8	△20	28.6%	
	合計	1,897	△251	△2,148	-	

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

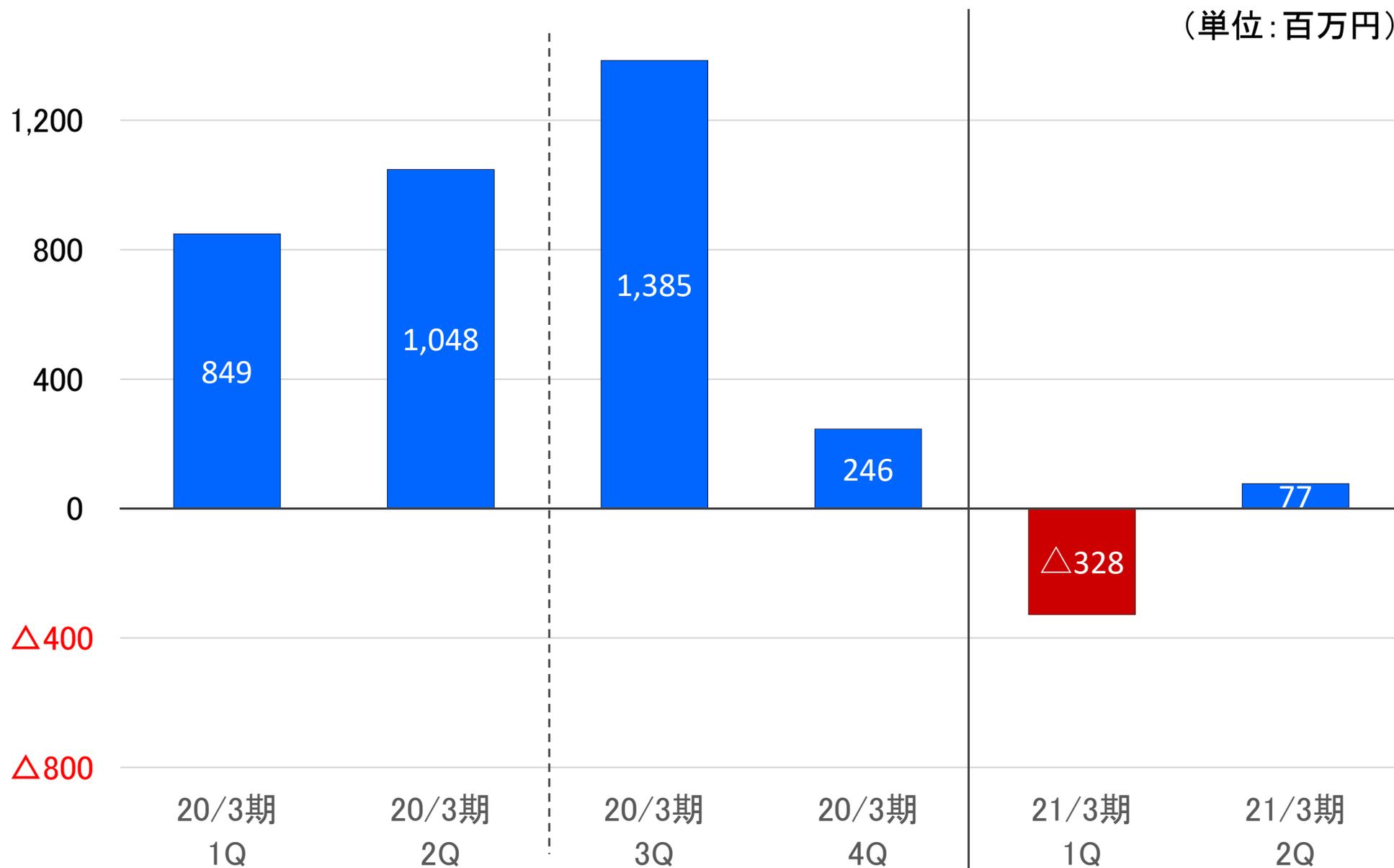
※ 「その他」は、連結処理等

セグメント別営業利益推移表

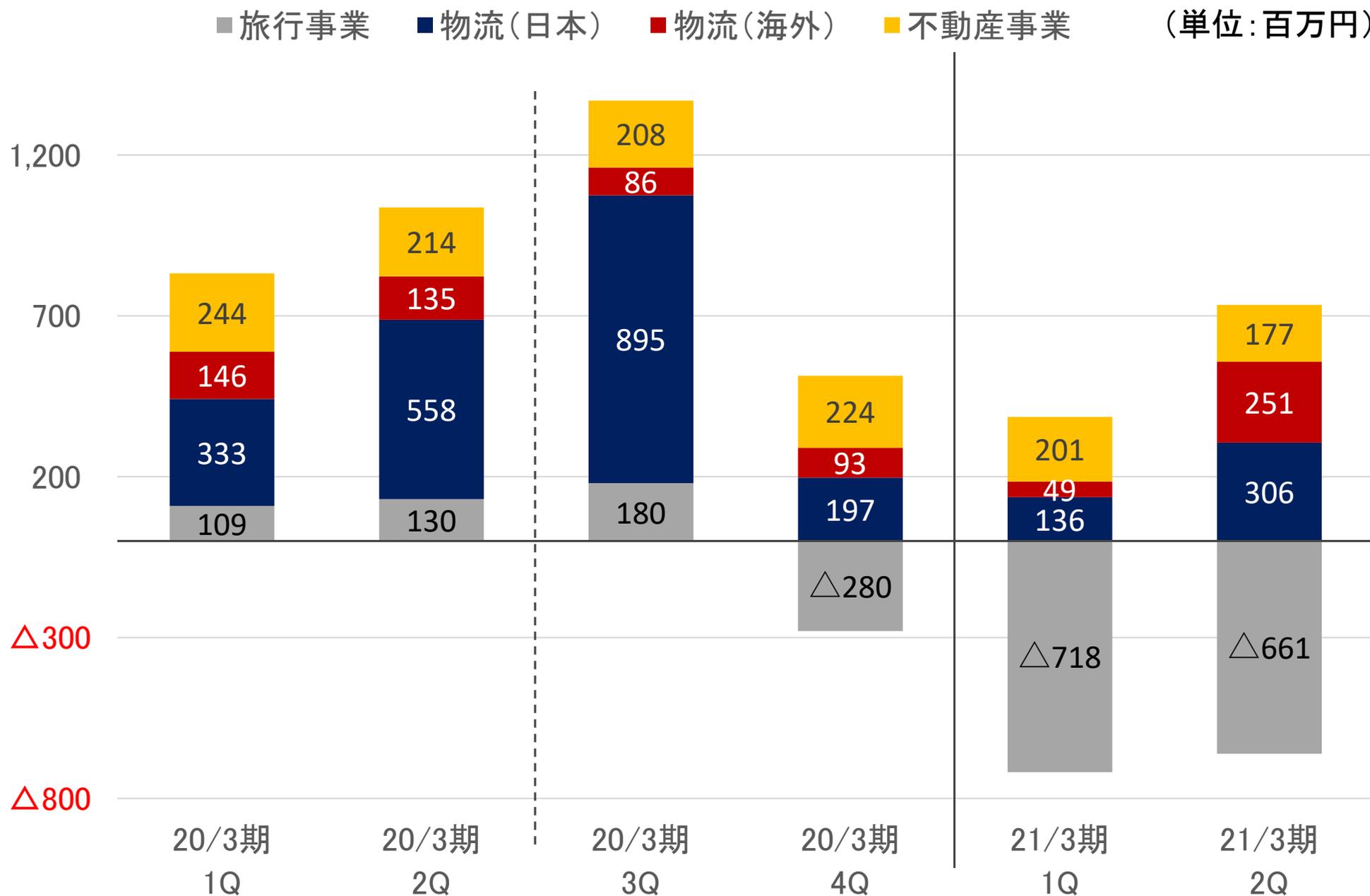
(単位:百万円)

事業		20/3期実績				21/3期実績	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
物流事業	日本	333	558	895	197	136	306
	海外	146	135	86	93	49	251
旅行事業		109	130	180	△280	△718	△661
不動産事業		244	214	208	224	201	177
その他		17	11	16	12	4	4
合計		849	1,048	1,385	246	△328	77

営業利益推移(20/3期1Q~21/3期2Q)

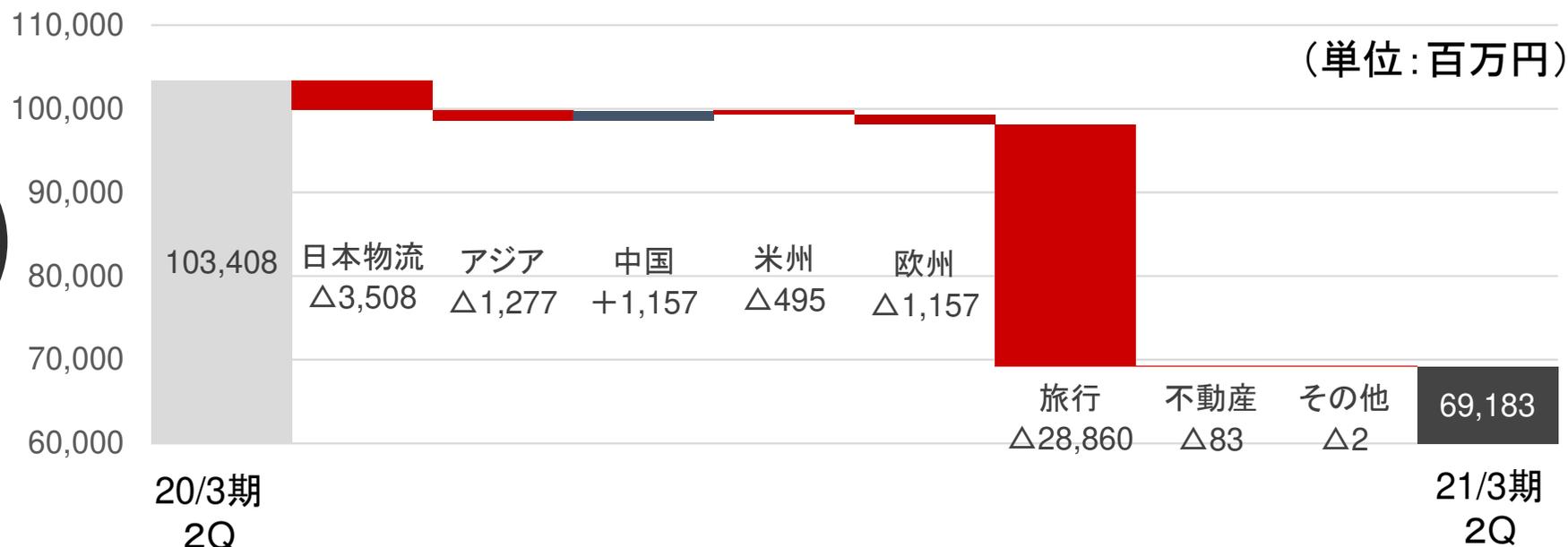


四半期営業利益(セグメント別)推移

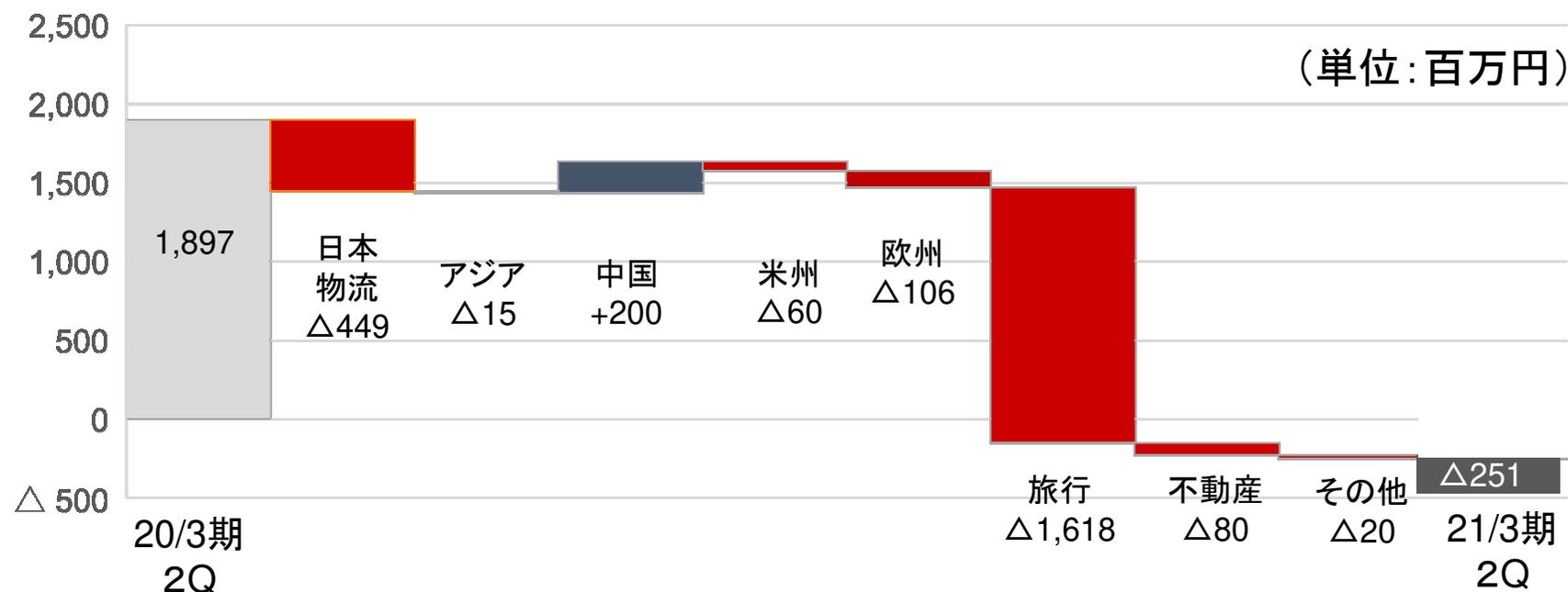


2021年3月期 第2四半期 増減比較

売上高比較



営業利益比較



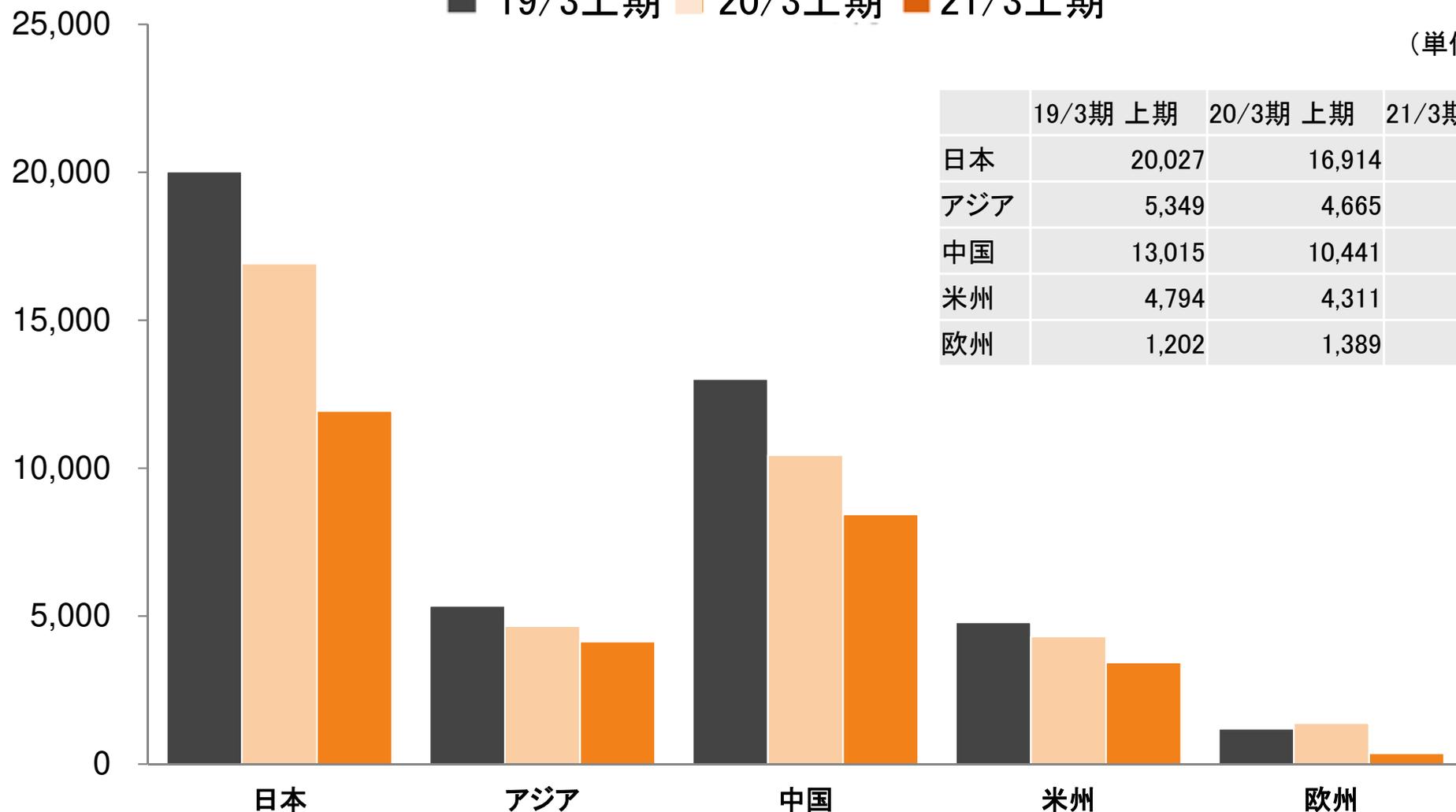
営業利益増減要因(前年同期比)

事業	地域	前年同期比 (百万円)	概況
物流事業	日本	△449	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物取扱い減少 ・航空輸出貨物の減少 ・食品関連、生活雑貨関連貨物の取扱い増加
	アジア	△15	<ul style="list-style-type: none"> ・第1四半期の自動車関連貨物の取扱いが前年同期を大きく下回る ・ベトナムでは電子部品関連の航空輸出が上期を通じ好調維持
	中国	200	<ul style="list-style-type: none"> ・生活雑貨関連貨物の保管配送業務が堅調 ・香港発電子部品関連貨物の航空輸出利益率が向上 ・家電製品の輸出貨物増加
	米州	△60	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の海上輸出は堅調に推移 ・自動車関連貨物の取扱い低調 ・航空輸出貨物の減少
	欧州	△106	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物の荷動き低迷 ・家電製品の倉庫保管、配送業務は回復傾向
旅行事業		△1,618	<ul style="list-style-type: none"> ・業務渡航者数の大幅減少
不動産事業		△80	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場収入の減少
その他		△20	_____
合計		△2,148	_____

航空 輸出

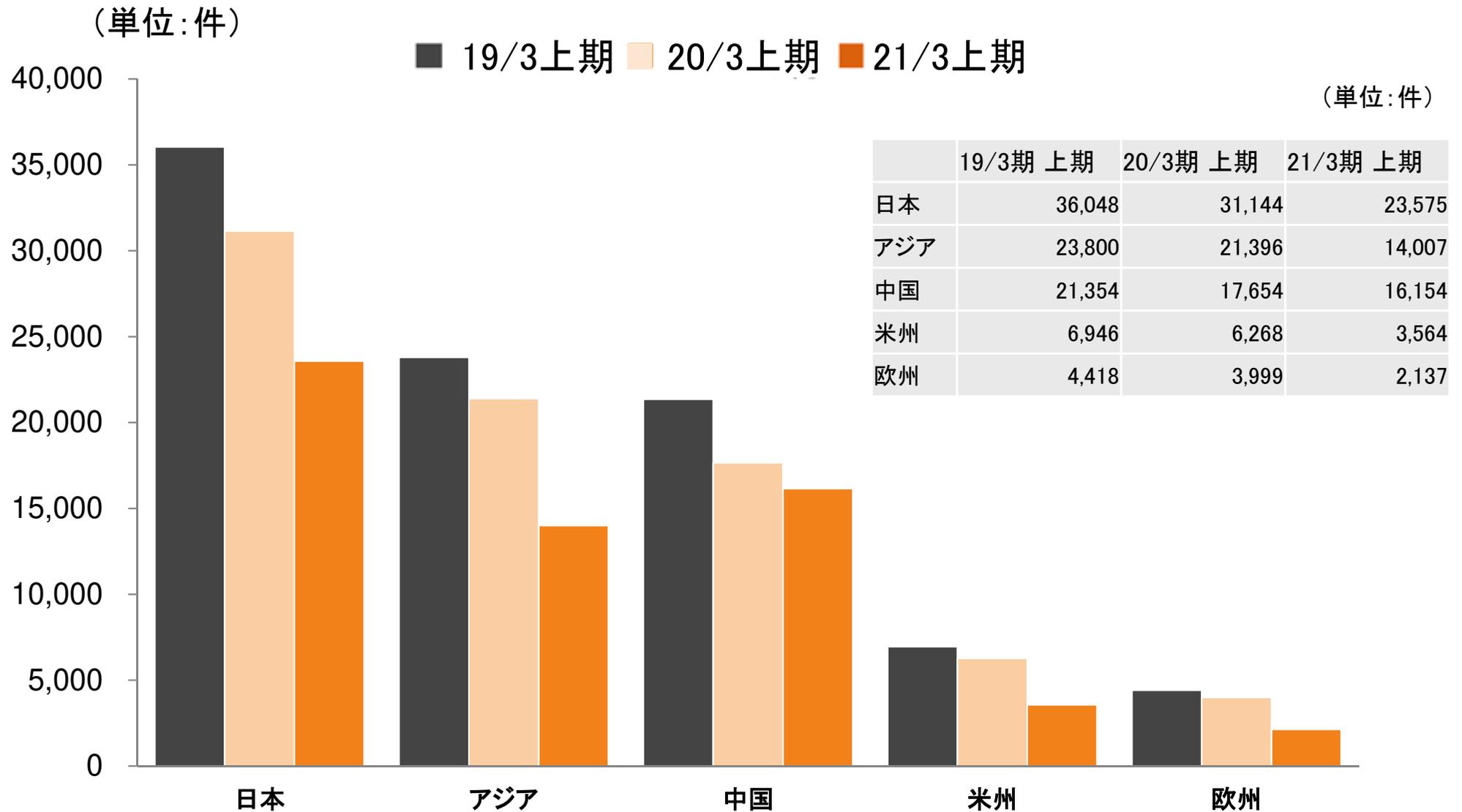
(単位:トン)

■ 19/3上期 ■ 20/3上期 ■ 21/3上期



(単位:トン)

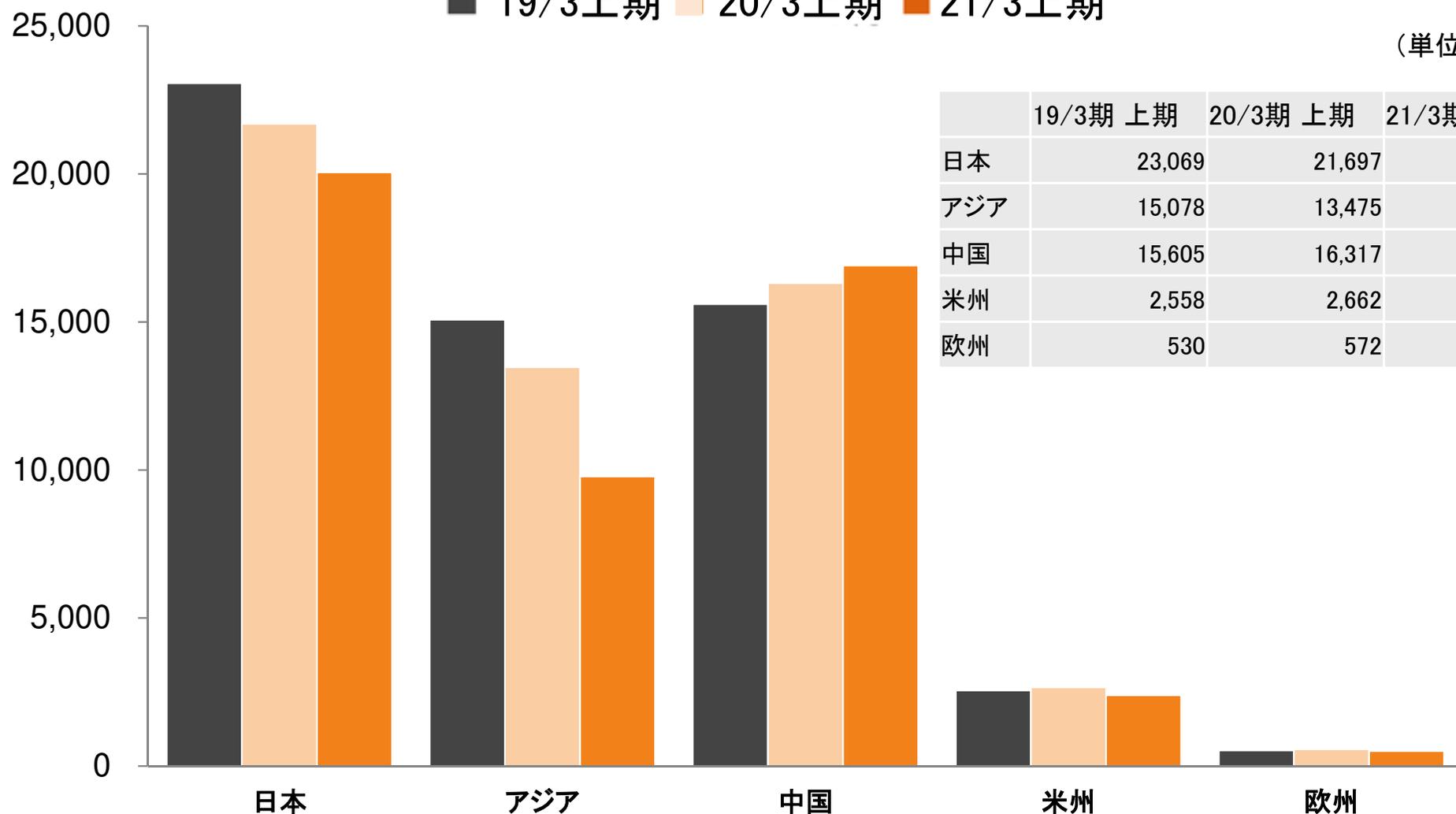
航空 輸入



海上 輸出

(単位:TEU)

■ 19/3上期 ■ 20/3上期 ■ 21/3上期



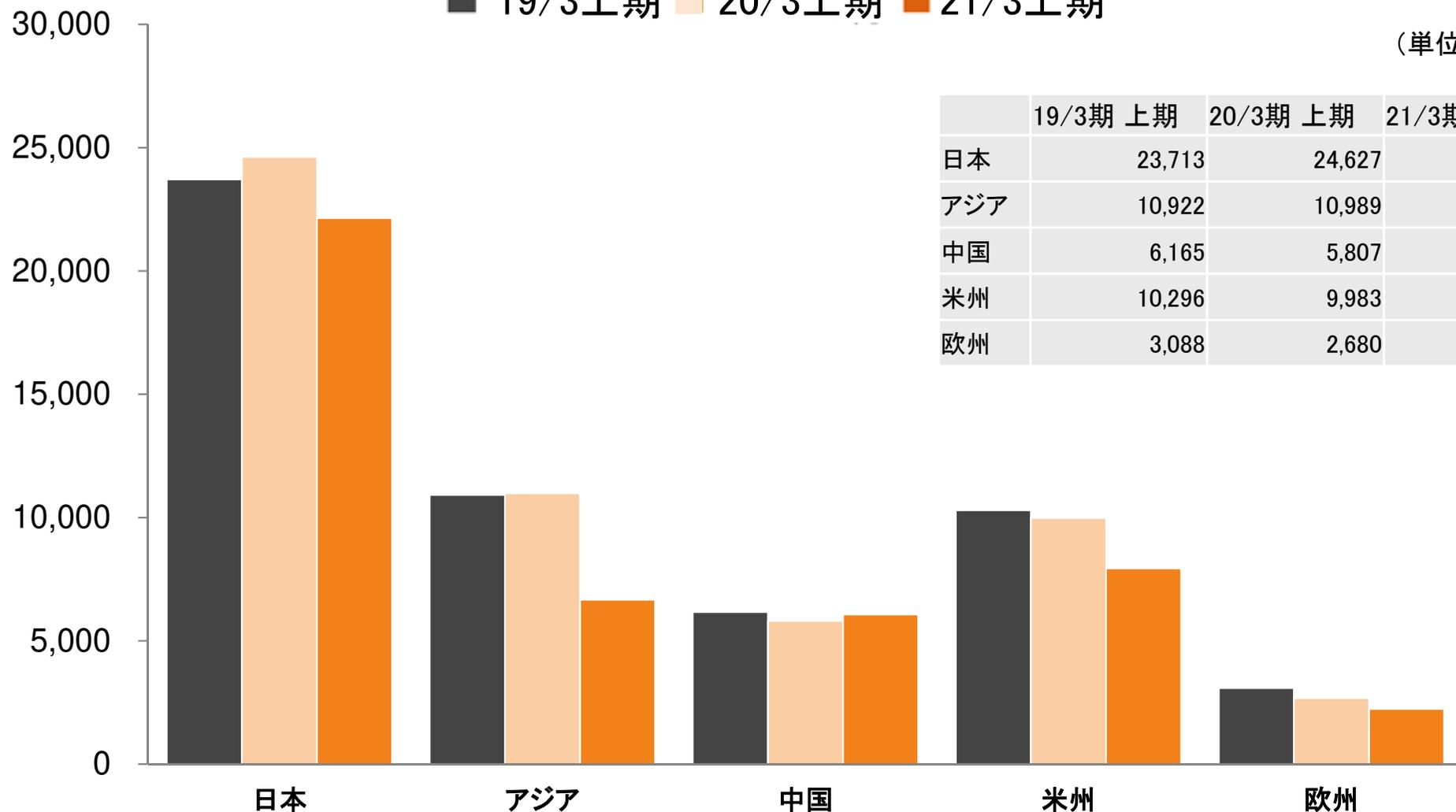
(単位:TEU)

	19/3期 上期	20/3期 上期	21/3期 上期
日本	23,069	21,697	20,057
アジア	15,078	13,475	9,781
中国	15,605	16,317	16,911
米州	2,558	2,662	2,394
欧州	530	572	509

海上 輸入

(単位:TEU)

■ 19/3上期 ■ 20/3上期 ■ 21/3上期



(単位:TEU)

Ⅱ .2021年3月期 通期計画

2021年3月期 通期計画

(単位:百万円)

	20/3期			21/3期			前期比	
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期計画	通期計画	増減額	率(%)
売上高	103,408	93,979	197,387	69,183	77,817	147,000	△50,387	74.5%
営業利益	1,897	1,631	3,528	△251	351	100	△3,428	2.8%
経常利益	2,309	1,805	4,114	612	388	1,000	△3,114	24.3%
四半期純利益	1,455	1,250	2,705	△155	455	300	△2,405	11.1%

2021年3月期 セグメント別営業利益計画

(単位:百万円)

事業		20/3期			21/3期			前期比	
		上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期計画	通期計画	増減額	率(%)
物流事業	日本	891	1,092	1,983	442	658	1,100	△883	55.5%
	海外	281	179	460	300	440	740	280	160.9%
旅行事業		239	△100	139	△1,379	△1,221	△ 2,600	△2,739	—
不動産事業		458	432	890	378	472	850	△40	95.5%
その他		28	28	56	8	2	10	△46	17.9%
合計		1,897	1,631	3,528	△251	351	100	△3,428	2.8%

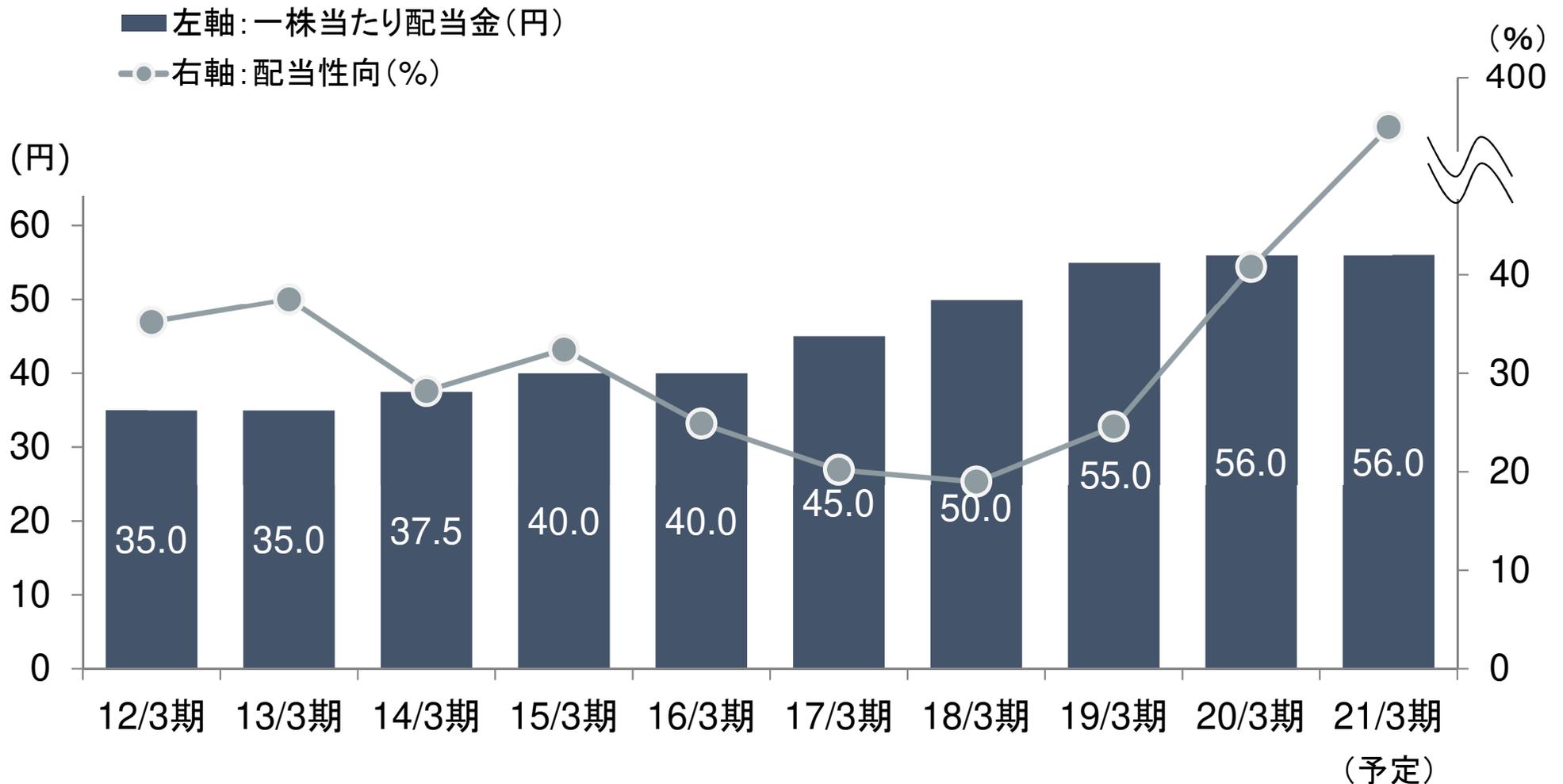
※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

※ 「その他」は、連結処理等

営業利益増減要因 (上期実績下期予想比較)

事業	地	域	上下期比 (百万円)	概況
物流	日	本	216	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物の荷動きが回復基調 ・食品や生活雑貨関連は堅調維持
	ア	ジ	△8	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物の荷動きは上期並みに推移 ・電子部品の航空輸出は好調維持
事業	中	国	△103	<ul style="list-style-type: none"> ・事務機器倉庫構内作業業務終了に伴う収益減 ・香港発航空貨物の上期の反動による物量減
	米	州	14	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物の荷動きが回復基調 ・米国発食品関連貨物は取扱い物量増加傾向 ・米国国内家電品DC倉庫業務が堅調
	欧	州	237	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連貨物の荷動きが回復基調 ・食品関連貨物の季節商品輸出増加 ・ドイツでの家電貨物の取扱い堅調維持 ・拠点における経費削減
旅行事業			158	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行者数微増見込み ・販管費削減
不動産事業			94	<ul style="list-style-type: none"> ・工事監理業務などによる収益増
その他			△6	
合計			602	

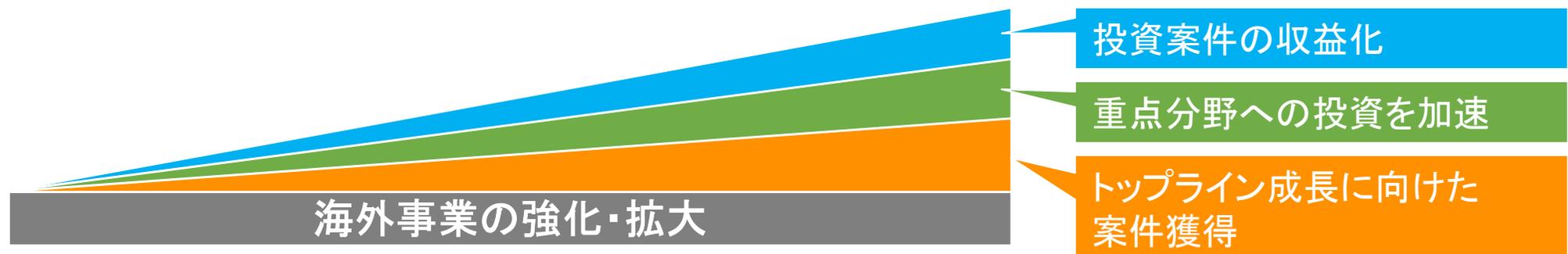
- 21年3月期第2四半期は前年と同額の28円の配当を実施
- 21年3月期通期の配当は56円(期末配当28円)を予定。



(注)2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

Ⅲ.第6次中期経営計画見直し

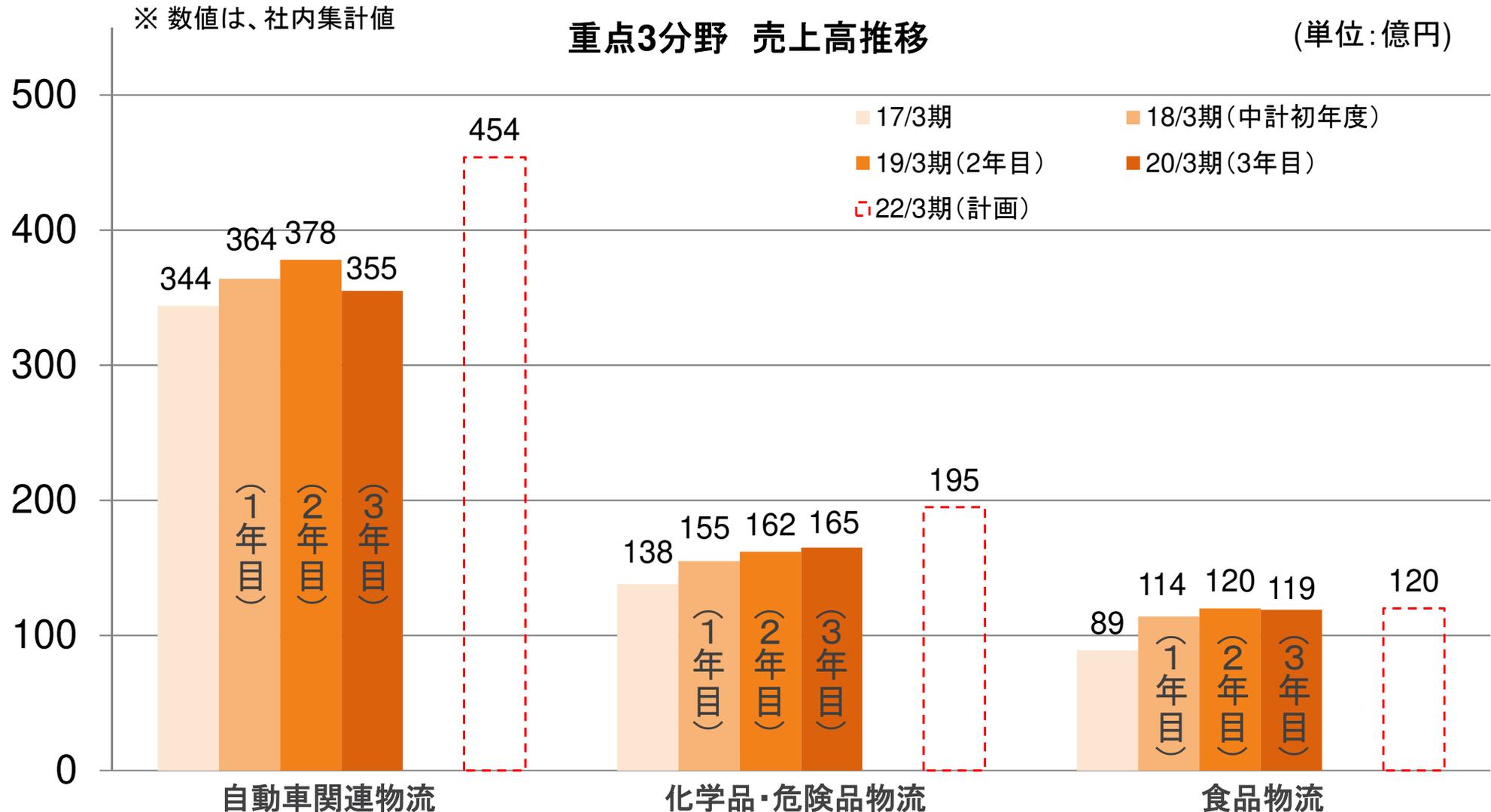
基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ~世界最高品質の物流企業への更なる進化~
期間	2017年4月~2022年3月(5年間)
重点施策	<ol style="list-style-type: none">重点分野(自動車関連、化学品・危険品、食品物流)国内事業の収益力向上<ul style="list-style-type: none">物流施設の再編業務効率化の追求物流事業・旅行事業の連携強化AIを活用した提案型営業の推進グループ経営基盤の強化<ul style="list-style-type: none">ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底人材の確保と育成資金の効率化などの財務体質の強化



第6次中期経営計画見直し

	変更前 2017年5月公表時	今回
対象期間	2018年3月期 ~ 2022年3月期	変更なし
定量目標	売上高： 2,300億円 営業利益： 74億円 経常利益： 77億円 当期純利益： 53億円 ROE： 8.0%程度	取り下げ
重点施策	1.重点分野 (自動車関連、化学品・危険品、食品物流) 2.国内事業の収益力向上 3.グループ経営基盤の強化	変更なし

■ 定量目標は取り下げるも、化学品・危険品、食品は順調に推移



重点3分野への注力(エリア別戦略)

実施済み

進行中

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
日本	新規顧客開拓	国内施設の拡充	冷凍・冷蔵倉庫 施設の拡充
アジア	タイ倉庫拡充 マレーシア新倉庫建設	化学品倉庫・ 化学品輸送拡充	食品物流網の構築
中国	グローバルアカウント 各社への重点営業	危険品事業の拡充	食品物流網の構築
米州	オハイオ 自社倉庫新設	(危険品事業への参入)	冷凍・冷蔵倉庫開設
欧州	非日系部品メーカーの 新規開拓	(危険品事業への参入)	食材の輸出入拡大

重点施策	3年総括	4, 5年目に向けた取組み
物流施設の再編	国内倉庫の稼働、着工 ・福岡:19年9月稼働 ・神戸:20年2月稼働 ・東京:21年3月竣工予定	関東地区でその他複数の 物流施設建設を計画中
業務効率化の追求	・組織改編PJの推進 (20年4月実施) ・管理、業務部門のRPA化実施 ・業務用写真共有アプリ (IAFONE)を開発、導入	・新体制の定着化 ・RPA化の更なる推進 ・IAFONEの社内浸透化
物流事業、旅行事業の連携	・推進	(取り下げ)
提案型営業推進	・SCMソリューション ・WMS(倉庫管理システム) ・ハコラボ	・海外への展開 ・顧客倉庫へのシステム展開 ・ハコラボに新機能を搭載した 商品開発

設備投資計画の進捗状況

(単位:億円)

地域	案件名	計画投資額	実施(見込み)投資額	営業開始	主要品目
日本	所在地	169	181		
	福岡市	九州日新アイランドシティ		2019年9月	一般貨物
	神戸市	摩耶西冷蔵倉庫		2020年2月	食品
	大田区	平和島冷蔵物流センター(仮称)		2021年3月(予定)	食品
	横浜市	本牧Aロジスティクスセンター(仮称)		2021年7月(予定)	梱包・重量物
	横浜市	横浜地区危険品倉庫		(2023年度以降)	危険物
海外	所在地	61	17		
	マレーシア	マラッカ倉庫		2018年3月	一般貨物
	米国	オハイオ倉庫		2018年3月	一般貨物
	タイ	プラチンブリ倉庫		2019年1月	一般貨物
	中国	上海倉庫		-	-
IT	IT投資	30	12		
合計		260	210		

IV.事業環境変化への対応

- ①旅行事業への対応
- ②物流事業への対応

①旅行事業への対応

日新グループ旅行事業

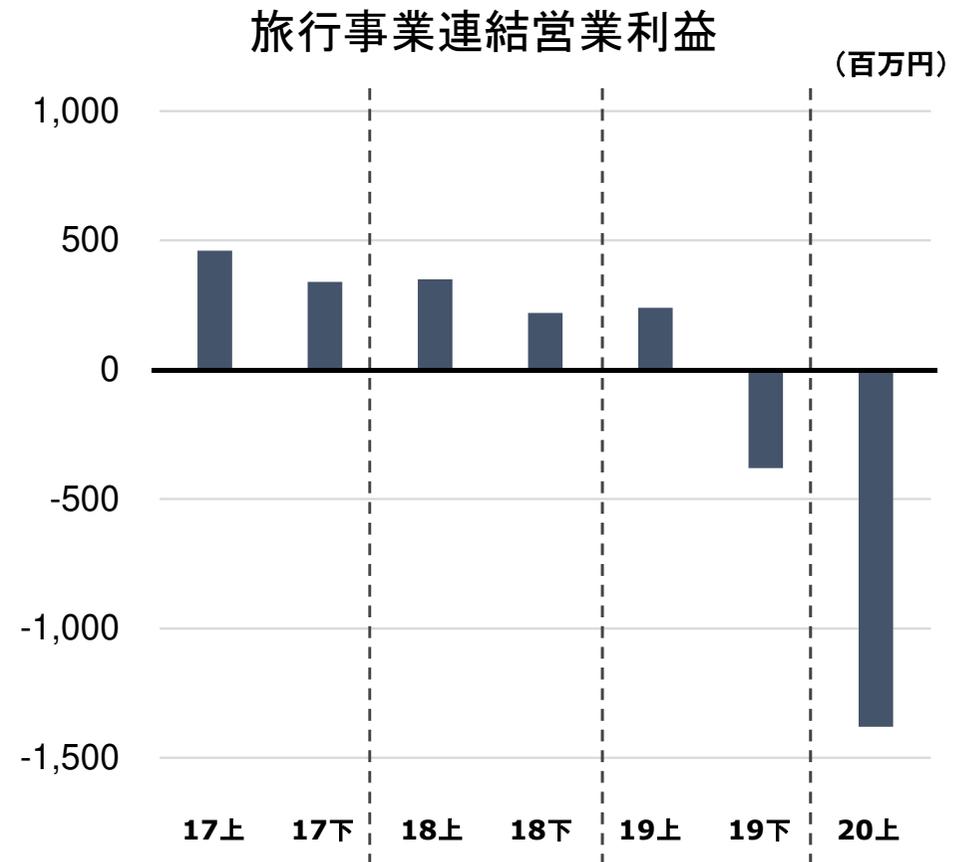
従業員数 **482名**

日新航空サービス

日中平和観光

他3社

旅行事業収支推移



①旅行事業への対応

1. 現在取っている緊急対応

i	役員報酬減額
ii	従業員賞与減額
iii	従業員の日新への出向
iv	雇用調整助成金
v	通勤費実費精算



2. 今後の対応

i	当面の新規採用中止等 人件費削減諸施策実施
ii	出向人数の増員
iii	事務所統廃合
iv	更なる追加施策

外部環境変化に強い企業体質を作るために

取組み	対応
1. 収益構造(顧客産業別)の分散	<ul style="list-style-type: none">・中期経営計画重点分野の化学品・危険品、食品の更なる強化により収益構造の分散化を図り事業環境変化に対するリスクの回避
2. バランスの取れた事業ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none">・収益事業分野(事業ポートフォリオ)ごとの利益検証ができるシステムの開発・利益率の高い各事業分野への注力
3. 国内事業強化	<ul style="list-style-type: none">・国内事業分野の整理統合・不動産事業強化
4. 海外事業強化	<ul style="list-style-type: none">・連結営業利益の海外セグメント比率の拡大
5. デジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none">・新規事業、新規商品

2021年3月期 第2四半期実績

旅行事業不振による最終赤字

2021年3月期通期計画

下期収益回復が鮮明に

第6次中期経営計画見直し

定量目標の取り下げ

事業変化への対応

旅行事業・物流事業への現在の取組み

V.トピックス

九州日新 アイランドシティロジスティクスセンター

竣工 19年9月

- 福岡市が国際物流として整備を進めるアイランドシティに位置し、コンテナターミナル、九州自動車道福岡IC、福岡空港が全て10Km圏内に入る抜群の立地

➤ 常温、冷蔵両機能を持つ保税倉庫。東アジア諸国への輸出基地も視野に



【施設概要】

名 称：九州日新アイランドシティ
ロジスティクスセンター

所 在 地：福岡市東区みなと香椎3丁目

施 設 内 容：常温(一部空調設備付き)
冷蔵

敷 地 面 積：14,703 m²

延 床 面 積：21,951 m²

ドックレベラー：9基

摩耶西冷蔵倉庫

竣工 20年2月



- 隣接する既存の摩耶冷蔵倉庫・摩耶埠頭倉庫とともに一体運用することで全温度帯(冷凍・冷蔵・定温・常温)対応完了
 - 需要が高まる冷凍スペースの増強を目的として建設
 - スピーディーな作業が可能な自動ラック導入
 - BCP対策の一環として受電設備、冷凍機等を荷捌棟の2階部分に設置



【施設概要】

名 称	: 摩耶西冷蔵倉庫
所 在 地	: 神戸市灘区摩耶埠頭 2-6
施 設 内 容	: 冷凍自動ラック倉庫
敷 地 面 積	: 4,140.03 m ²
延 床 面 積	: 8,237.74 m ²
収 容 能 力	: 13,800 冷蔵トッ
クレーン 数	: 5 台
搬 送 台 車	: 4 台
棚 数	: 5,040 パレット

平和島冷蔵物流センター(仮称)

稼働予定 21年3月



■ 東京港、羽田空港に近く、首都圏へのアクセス抜群の立地に最新型冷蔵倉庫を建設予定

- 地上5階建て、延床面積約18,000㎡、26,000冷蔵トンの収容能力
- トラックバース18レーン



【施設概要】

名 称：平和島冷蔵物流センター
(仮称)

所 在 地：大田区平和島三丁目

施 設 内 容：冷凍・冷蔵倉庫

延 床 面 積：18,326 m²

収 容 能 力：26,341 冷蔵トン

本牧Aロジスティクスセンター(仮称)

稼働予定 21年7月



■ 再開発計画の一環として、本牧ふ頭内に梱包工場、保管・荷捌上屋を移転

- 「京浜地区における輸出事業の中核拠点」として位置付け
- 最大80トンの重量貨物の荷役が可能、高品質な物流サービスを提供
- 横浜地区初の外航船接岸可能な大型梱包工場

【施設概要】



名 称： 本牧Aロジスティクスセンター
(仮称)

所 在 地： 横浜市中区本牧ふ頭8-1,9-1

施 設 内 容： 梱包・保管倉庫

延 床 面 積： 10,085 m²

主 な 設 備： 天井クレーン
(40t(20t+20t)x2基、20tx1基
10tx1基)



北仲通北地区に住宅・商業施設を開発



■ 北仲通北地区



北仲通北地区開発イメージ



資料ならびにIRに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社 日新
経営企画部

TEL:03-3238-6555

<https://www.nissin-tw.com>

※本資料は投資勧誘の目的のための資料ではございません。
また、将来に亘る部分につきましては予想に基づくものであり、
確約や保証を与えるものではありません。